

橋渡し研究推進担当副病院長の紹介

社会から求められるニーズと、当院のシーズを繋ぐ

病態生理学講座 教授 副病院長（橋渡し研究推進担当） 今井祐記

私の研究は、大きく二つの柱からなっています。一つは、整形外科医としての経験から、骨・関節・筋肉という運動器の恒常性維持や疾患の原因となる分子メカニズムを解明し、新たな治療法の開発を試みています。もう一つは、ボストンでの留学経験を生かし、ゲノムワイド解析を応用して、運動器のメカニズムや、がんの骨転移のメカニズムや予防法の確立を目指しています。

私は、今年4月に、橋渡し研究推進担当の副病院長に任命されました。昔から、開発・研究分野と臨床現場には「デス・バレー（死の谷）」と呼ばれる深く長い溝があると言われています。その溝に橋を架け両者を繋ぐために、私のような臨床経験がある基礎研究者が必要だと思っています。臨床現場での疑問を基礎研究に結びつけ、基礎研究で発見したことを臨床に応用するには、臨床部門と研究部門が揃っている大学病院が最適であると考えています。現在、理化学研究所から、大規模な国際共同研究への参加要請が届いています。他大学に先駆けてこうした声がかかることはありがたいことですし、私が窓口となり、この共同研究の進展に繋がるよう尽力していきたいと考えています。



PROFILE

いまいゆうき◎大阪府出身、1999年大阪市立大学医学部卒業、2005年同大学院修了、医学博士。大阪市立大学大学院医学研究科、東京大学分子細胞生物学研究所を経て、2013年から愛媛大学に教授として着任し、2018年から現職。趣味は阪神タイガース。